

2017年5月7日(日)

説教:「わたしのローマ」

聖書:ヨハネによる福音書14:18~28

現代キリスト教に大きな二つの流れがある。

1. 「解放の神学」 2. 霊性の流れである。

1. はラテンアメリカ中心に発展途上国に起こった運動。1950年代にスラムや農村に入った人たちによる、不当抑圧される権力からの解放を目指す。

今朝は 2. について触れたい。霊性といえば、わが沖縄には大きな流れがある。ユタ、祖先崇拜、民俗信仰が多々ある。先日はテレビで神の島とされる浜比嘉島の話が放送されたが、周知のアマミキヨ、シネリキヨの天孫降臨の神話の神を祀る。私の隣人にその島のノロがいるが。聖書はキリストの霊こそ真の霊であり、霊性であるという。キリスト教と言っても単純ではない。現代は心の時代と言い、宗教と縁のない様々な言い方があるが。ヨガとか内観など。われわれが言うのは、キリストの霊、約束の霊、聖霊のこと。27節に「心騒がすな、おじけるな」とある。使徒パウロは、聖霊によって、私は「ローマを見なければならない、ローマに上なければならない」と宣言しているが、エルサレムだけでなく、広くキリストの福音を伝えたい、言う。その志と使命感は壮大というべきであろう。彼の人生の目標となり、世界を目指す。前へ、前へ、と進む。

われわれは人生途上で、「心騒がす、おじける」時が誰にもあるであろう。われわれには「わがローマ」があるか、と問われる。「若者は夢を見、老人たちも夢を見るであろう」と聖書は言う。キリストの霊に押し出されたい。(名護良健)